

JOIFA OFFICE AWARD 2024

第3回
JOIFAオフィスアワード
実施報告書

2025.6.3

一般社団法人日本オフィス家具協会

■ 第3回実施概要

【開催日程】

2024年	9月2日～11月29日	応募受付
	12月	1次審査(書類選考) 10社
2025年	2月	2次審査(バーチャル審査) 7社
	3月24日	最終審査(優秀賞、特別賞選出)
	6月 3日	オルガテック東京(東京ビッグサイト)にて最優秀賞選出、表彰式開催

【審査委員 (敬称略)】

<審査委委員長>

地主 廣明 東京造形大学 名誉教授

<審査委員>(五十音順)

妹尾 大 東京科学大学工学院経営工学系 教授

豊田 健一 株式会社月刊総務 代表取締役社長

成瀬 友梨 株式会社成瀬・猪熊建築設計事務所 代表取締役

廣川 玉枝 SOMA DESIGN デザイナー

箕浦 龍一 公務部門ワークスタイル改革研究会 研究主幹

若月 貴子 クリスピー・クリーム・ドーナツ・ジャパン株式会社 代表取締役社長

■ 応募企業の規模

・資本金

1億円以下	4
10億円以下	1
100億円以下	2
100億円以上	3

■ 応募オフィス所在地

北海道	1 (北海道1)
関東	6 (東京5、神奈川1)
中部	2 (愛知2)
関西	1 (大阪)

■ 応募オフィスの規模

・従業員数

50人未満	4
100人未満	3
300人未満	1
300人以上	2

・フロア面積

500㎡未満	3
1000㎡未満	3
3000㎡未満	1
3000㎡以上	3

【最優秀賞】 株式会社文祥堂



【審査員講評】

- ・海が見えるという恵まれた立地に加え、築70年の元役所という歴史ある建物を再活用し、レンタルオフィスや日帰り利用、さらには2名まで宿泊可能なワークスペースとして提供されている点は、大変ユニークで魅力的だと感じた。
- ・木組みを使ったり、古いフローリングをそのまま残したりと、建物内外共に自然感満載である。什器も多様化されており、什器×借景という組み合わせが多様にある。立地のなせる業である。
- ・地域とワーキングスペースとして利用される会員間での繋がり、共創の今後の発展に期待し、ここから発信されること、生み出されるものに注目していきたい。
- ・地域との共創は実現されつつあり、地域のレガシーを残す、という点では成功しつつある。
- ・都市とは違う豊かな環境の中で働くことの価値や、地域とのつながりを創出する取り組みについて高く評価したい。
- ・地元食材を使用したお弁当の提供や、役所のカウンターを再利用したデザイン、宮大工による内装など、細部にまでこだわりが感じられ、温かみのある雰囲気を生み出している点も素晴らしいと思う。さらに、地域の方々も活用できる場となっていることも、大きな価値があると感じた。

【最優秀賞】 株式会社文祥堂

応募組織等名称	株式会社文祥堂
URL :	https://u-odawara.com/
資本金	500百万円
業種	オフィス環境事業
応募オフィス名称	Workcation House U
応募オフィスの従業員数	3人
使用開始年月 :	2022年6月
応募オフィス所在地	神奈川県小田原市根府川77-1
建物の築年数	71年
応募オフィスの延床面積	397.67㎡
応募オフィスのフロア数	2フロア
応募オフィスの種類	その他

オフィスを造られた経緯・目的

【記入必須項目】はじめに

オフィスを造られた経緯・目的をご説明ください。
ビフォアアフターの写真等があれば貼付してください。

これまで株式会社文祥堂は「働く場」である“オフィスづくり”を通して、「働く」に新しい価値を創造すべく務めてきたが、働き方の多様化するこれからの社会において「場」のもつ様々な可能性を追求するため、本ワーケーションプロジェクトの企画をスタート。

自律的に働く人、働きたい人、仕事にポジティブな人が
仕事を人生の一部として楽しめる「場」や「機会」を提供したい

と考え、地域住民に長く愛されてきた旧片浦支所の建屋をリノベーションし、地域と共創しながら3つのテーマでワーケーションプログラムを企画・実行した。

地域と共創するワーケーションプロジェクト

1. 働き方の新しい形を探る
2. アイディアを育む
3. 地域の特徴を生かした付加価値を生む



施設の経緯

- ・元村役場・小田原市役所の旧片浦支所
- ・平成31年（2019年）廃止後、一時取り壊しも浮上
- ・「遊休不動産の利活用」提案を小田原市が公募



新しい働き方を体感できる場や機会を提供したい当社が「地域と共創するワーケーションプロジェクト」を小田原市に提案し、採用。2022年6月にWorkcation House U（ワーケーションハウスU）としてオープン。

築70年の旧役所支所が海の見えるワーケーションハウスに生まれ変わった



【優秀賞】 第一生命保険株式会社



【審査員講評】

・建物という社会資産を繰り返し変えることでさらに価値を高めるとい、持続可能性が求められる時代に適合したコンセプトでありそれを実現している。

・竣工後もユーザーアンケートをしており、担当者会議で議論ししっかりと対策を施し、改善を図っている。対応策についても資金を投じて大規模に行っている。ユーザーファーストに立脚し、オフィスは投資であるという認識の元、徹底しているように感じる。

・社内と社外、地域と社会、そして投資家。全てとそれぞれの場面につながっている。まさにストーリーのある建物であり、ストーリーのあるスペースである。これが共感を生み、それにより、さらな繋がりを生んでいる。コンセプトが秀逸であり、それを実現されている点も高評価である。

・食堂階を社員だけでなく、ビル入居会社にも開放しているところが素晴らしい。ビル内の人のつながりが生まれている事例はそれほど多くないのではないかなと思う。

・社員が中心となって企画し、経営側が決断して作られた新しいオフィスは、現代のオフィスに求められる諸機能を備えており、良いと思う。その後も社員の改善提案によって、継続的に改善が積み重ねられている点も評価できる。戦前からの堅固な旧社屋を活かしながら一体化した社屋は、良い伝統を継承しつつ、現代的な働き方への対応を考えた点では評価できる。

・面白いと思ったのは、入居テナントが誰でも利用できる空間（LOFFT）を創出したこと。「つながる」「交差点」というコンセプトから、社内外の人たちが交わる場所として、今後の活用を通じて、どのように化学反応が起きるのが楽しみ。

・改装後の利用者調査を定量的・多面的に実施することで改善が図られている。

【優秀賞】 第一生命保険株式会社

応募組織等名称	第一生命保険株式会社
URL :	https://www.dai-ichi-life.co.jp/index.html
資本金	60,000百万円
業種	生命保険業
応募オフィス名称	日比谷オフィス
応募オフィスの従業員数	2,000人
使用開始年月 :	2022年9月
応募オフィス所在地	東京都千代田区有楽町1-13-11
建物の築年数	85年
応募オフィスの延床面積	40,000㎡
応募オフィスのフロア数	7フロア
応募オフィスの種類	事務所

オフィスを造られた経緯・目的

【記入必須項目】 はじめに

オフィスを造られた経緯・目的をご説明ください。
ビフォアアフターの写真等があれば貼付してください。

「**変革と挑戦**」の伝承 世紀を超えて続くオフィスの Re-Novation

繰り返す 変革

～生命保険会社として近視眼的にならず、世代をつなぐ長いスパンで、
建物という社会資産を使い続ける責任と価値を、経済合理性を踏まえて最良のバランス（営業用・投資用）で追求～

■ 経緯・目的

日比谷本社は、旧本社屋「DNタワー21」の老朽化に加え、国内の人口減少や価値観の多様化等により、従来の保険事業の枠組みを超えた事業領域への展開が必要不可欠となっている当社の経営課題の状況も踏まえ、“**当社に根付く「変革と挑戦」を更に加速させるオフィス**”とするべく、2019年1月から検討を開始。

1938年竣工以来、時代のニーズに合わせて形を変えてきた「変革と挑戦」の象徴である日比谷本社オフィスを、「建替え」ではなく「リノベーション」することで、当社の社会的責任や経営課題解決を追求。

コロナウイルス感染拡大や共同所有者持分の取得、さらに事業効率向上の必要性等、検討途上で新たに考慮すべき事項が生じたことから計画の見直しも実施しつつ、全22回の移転を経て、2022年8月に最初のフロア、2023年8月に全フロアが完成した。

Before



After



【優秀賞】 株式会社LIXIL



自宅のような心地よさを感じられるように木質の色調や質感で統一

【審査員講評】

- ・経営者の理念とそのカタチ化に整合性がある ABWへの姿勢が感じられる。
- ・コミュニケーションとコラボレーションが生まれる場所としての本社オフィスにふさわしい多様な仕掛で刺激がある。
- ・ユーザーが自身の要求をためらわずに表明するという積極的関与の姿勢が会社内に浸透しているような雰囲気があった。
- ・会社の方針とぶれない姿勢により継続されているところは、経営の強さだと感じる。一つの社会実験として着目すべき事例だと思う。
- ・「第二の家」という明快なコンセプトが、空間としても働き方としてもうまく実現されているように見えた。リモートワークがかなり推進されており、どういう時にオフィスに來たいかが明確化され、それに合わせて空間と仕組みがデザインされているのが良い。
- ・従業員2,000名を対象にアンケートを実施し、五つの視点からオフィスの改善点を分析された点は、とても意義のある取り組みだと感じた。また、コロナ禍を契機に、分散していた事業所を1/10の広さに縮小・集約しつつ、統合も含めて移転されたことは、効率的なオフィス運営の観点からも大きな決断だったと思う。
- ・改装しておしまい、ではなく、総務担当者が熱意をもって働きやすい環境づくりに取り組んでいる印象を受けた。素敵な家具、広いスペースを入れることがよいオフィスではなく、継続した改善がなされることがよいオフィスづくりにつながると思うので、理解ある総務担当者がいたことが一番の良い点だと思う

【優秀賞】 株式会社LIXIL

応募組織等名称	株式会社LIXIL
URL :	https://www.lixil.com/jp/
資本金	68,530百万円
業種	非鉄金属・金属製品
応募オフィス名称	LIXIL HQ
応募オフィスの従業員数	5000人
使用開始年月 :	2022年11月
応募オフィス所在地	東京都品川区西品川一丁目1番1号大崎ガーデンタワー
建物の築年数	7年
応募オフィスの延床面積	5491.84㎡
応募オフィスのフロア数	1フロア
応募オフィスの種類	その他

オフィスを造られた経緯・目的

【記入必須項目】はじめに

オフィスを造られた経緯・目的をご説明ください。
ビフォーアフターの写真等があれば貼付してください。

2020年上半
働き方改革が加速

COVID-19感染拡大時には、従業員の健康と安全を第一にいち早くオフィスワーカーの在宅勤務を基本方針とした。デジタルインフラと、柔軟な働き方を可能とする人事制度が整備されていたことが功を奏し、これまで以上に生産性や効率性を重視しながら自身のライフスタイルに合わせた自律的な働き方が奨励され、労働環境の変化により働き方改革が加速した。

2021年
本社移転の決定、働き方とオフィスを定義

出社率は約5%に低下し、完成当初は4棟で収容人数5,000人を想定していた本社オフィスとの規模のミスマッチが課題に。使用率の低下、設備維持費用、長引くパンデミックの状況などを総合的に鑑みて「働き方」と「働く場所」を再定義し、働きやすい環境の整備と中長期的な運営費用の削減と資本効率の向上を図るために本社移転を決定。移転を通じ従業員エクスペリエンスの向上と、新たな価値を提供する「PROJECT FUTURE SHIFT」を立ち上げ、執行役を含むステアリングコミッティーを結成し、様々な部門が実行に携わった。

2022年上半
従業員による、従業員のためのオフィス作り

住まいや暮らしの専門性を持つ社内タスクフォースは、従業員の声を活かし、円滑な移転のために連携。オフィスワーカーの実態を探るべく、働き方のアンケートを実施。その結果、柔軟な働き方や在宅勤務に肯定的な反面、オフィスは対面で交流を深め、議論の促進に役立っているという回答が多く見られた。加えて、出社することが「ウェルビーイングやエンゲージメント、誇りや帰属意識、さらに生産性の向上」に寄与し、オフィスは、従業員同士が繋がりを再認識し連帯感を養う場所へと進化していたことがわかった。

2022年11月
オープンで開放的な本社オフィスが誕生

オフィス面積1,600坪超に広がるワンフロアに従業員が集い、オープンな空間を共有することで対話が生まれ創造性を引き出すオフィス設計が可能に。自社商材の多用はもちろんのこと、色調や質感、スペースの使い方など一貫した企業ブランディングに注力した。品川駅や羽田空港にも近く、首都圏のみならず国内や世界各地からのアクセスにおいても利便性が向上した。

働き方改革の推進

LIXILは持続的な成長に向けた変革の中にあり、**実力主義の徹底や起業家精神の醸成、迅速な意思決定、インクルージョン文化の醸成**に取り組んでいる。スーパーフレックスの導入などといった柔軟なワークスタイルを可能にする人事制度や働き方改革と同時に、社内SNS「Workplace」導入といったデジタルインフラの整備や一般従業員が業務改善アプリ開発を行うなど、DX化を積極的に推進している。自律的な働き方を支援するカルチャー、人事制度、デジタルツールがワークライフバランスの向上をサポートし、よりインクルーシブな職場環境の構築と従業員エクスペリエンスの向上を目指している。

2019年 完成 大島の5,000人規模のオフィス



2022年 11月完成 大崎の新オフィス（詳細は別添資料にて補足）



【優秀賞】 日本グッドイヤー株式会社



【審査員講評】

- ・オフィス内の見通しのよさとオフィスのそれぞれの空間の個性が際立っている点で高評価。
- ・コロナ後のオフィス回帰を、社員の新しい働き方への希望も尊重しつつ、ほどよい程度で実現しているように見える
- ・多様なスペースがたくさんあるのではなく、それぞれの部門に適した多様な場がある、という本質をついているオフィスである。
- ・ユーザーに寄り添った姿勢が素晴らしい。声を拾う場を設け、ハードのみならずソフトまで気を配って改善を施している。それも細かい改善が素敵だ。
- ・限られたワンフロアの中で、多様な働く場所、くつろぐ場所がうまく配置されている。大テーブルがワークだけでなくイベント時にもうまく活用されており、オフィスが働く場としてだけでなく、使い倒されているのが良い。
- ・働き方の大幅なアップデートとブランド価値の更なる向上という狙いの下で、リモートワークの積極活用や完全フレックスなど先進的な働き方を実践している点は、素晴らしいと思った。
- ・カルチャー体现の一環かと思うが、オフィススペースを利用したイベントの内容・実施方法についても働く人のブランド帰属意識が高まる取り組みがされていると思った。

【優秀賞】 日本グッドイヤー株式会社

応募組織等名称	日本グッドイヤー 株式会社
URL :	https://www.goodyear.co.jp
資本金	2,360百万円
業種	市販用タイヤ販売事業
応募オフィス名称	日本グッドイヤー 本社オフィス
応募オフィスの従業員数	90人
使用開始年月 :	2023年3月
応募オフィス所在地	東京都港区六本木一丁目4番5号
建物の築年数	11年
応募オフィスの延床面積	940㎡
応募オフィスのフロア数	1フロア
応募オフィスの種類	事務所

オフィスを造られた経緯・目的

【記入必須項目】 はじめに

オフィスを造られた経緯・目的をご説明ください。
ビフォアアフターの写真等があれば貼付してください。

会社設立から50年以上入居していたビルの老朽化による建替えを契機に、移転プロジェクトが発足。



旧オフィスは日本グッドイヤー様の歴史が詰まった、社員にとっても愛着のある拠点でした。その系譜を守りながらも、働き方の大幅なアップデートとグッドイヤーブランドのさらなる価値向上が新オフィスには求められました。

【特別賞】 株式会社アイシン



【審査員講評】

- ・製造オフィスに光を当て、間接的アプローチによって生産性を高めようとする取り組みは、挑戦的であり開拓者として、ポジティブ・サプライズ（意外性、独自性）の評価軸で高く評価できる。
- ・これまでは生産優先・生産ラインの補助的場所であった「詰所」に着目し、手を入れた点で、社会的にも貢献が大きい。「新たな挑戦への活力が生まれる場」を目指している。
- ・工場の中という厳しい環境で、事務仕事や休憩・リラックスに適した環境を作るという難しい課題にチャレンジしている。休憩・リラックスするには、エリアの中だけでなく、エリアの外側にもベンチ席を作るなど、複数でも、一人でもくつろげる場所が限られたスペースの中で実現されている。
- ・製造業の工場の詰所（休憩所）に着目したワークプレイスのリノベーションは、目新しい取組であり、好事例としての横展開も期待できる。
- ・詰所での様々な業務・滞在ニーズを踏まえたABW的な要素も取り入れられており、また、リノベーション後も社員の意向をもとに改善が重ねられている点も良いと思う。
- ・改装後も利用者の意見を聞き、工場ならではのDIYを活用した改善が行われていた
- ・工場で働く従業員のみなさんが、自身の働く場所であるという自覚をしっかりと持ち、改装計画段階から積極的に参加して実現した“自分たちの場所”という強い意識が伝わった。

【特別賞】 株式会社アイシン

応募組織等名称	株式会社アイシン
URL :	https://www.aisin.com/jp/
資本金	45,000百万円
業種	製造業
応募オフィス名称	安城第2工場 2MHV組立ライン 詰所・休憩所
応募オフィスの従業員数	60人
使用開始年月 :	2022年9月
応募オフィス所在地	愛知県安城市藤井町高根10番地
建物の築年数	40年
応募オフィスの延床面積	110㎡
応募オフィスのフロア数	1フロア
応募オフィスの種類	その他

オフィスを造られた経緯・目的

【記入必須項目】はじめに

オフィスを造られた経緯・目的をご説明ください。
ピフォアアフターの写真等があれば貼付してください。

会社概要

●取り巻く環境
自動車業界は100年に1度の変革期
2021年4月
アイシン精機とアイシン・エイトアユが経営統合
株式会社アイシンが誕生
AI SIN
フルモデルチェンジが求められている

●経営理念
“移動”に感動を、未来に笑顔を。
成長と幸せを
働く仲間へ
経営理念において、一番の価値提供先は、働く仲間となっており、近年では、人的資本強化に力を入れている

●工場環境と取り組み背景
パワートレインユニットを生産する安城第2工場を取り巻く環境も、大きな変革期を迎えている
社会も業界も工場も変わり、変化やチャレンジが求められる中、仲間が働く環境は、成果を出せる環境になっているのか…?

新製品の立ち上げ後さっけに、働きがいのある職場づくりの取り組みの一つとして工場の現場作業者が使用する、詰所・休憩所の在り方を再検討

取り組み概要

●詰所・休憩所とは？
社内規定により定められた、平米数・距離に準じたエリアを確保し、整備実施

詰所
管理者の事務作業
集中度て作業しつらく、業務が圧迫

Q.詰所は休憩スペースとして作業しやすい環境ですか？
満足度 **30%**

休憩所
10分・昼休憩
面談・MTG
休憩しつらく、生産に影響する可能性あり

Q.現在の詰所/休憩所に満足しているか？
満足度 **27%**

新製品の詰所・休憩所は、より集めたいなる“新たな挑戦への活力が生まれる場”へ

●新製品生産準備コンセプト

社長吉田からのTOPメッセージ
挑戦なき3勝0敗に満足していないか 部下の話を聴きワンチームの意識を醸成できる目標を設定して満足していないか

新製品の立ち位置 : 電動化市場で勝ち抜くための重要PJ

Slogan
もったいい工場で、もったいい商品を！
私たちが

Concept
生き残りをかけた、強い“危機感”と“挑戦”によるGlobal Standard ライン実現

生産準備の柱
安全と品質を主眼に、
・電動化 / 新機軸
・CN / 3D / COO機軸
・D&I / 働きがい改革
の3本の柱を重点取り組みと設定

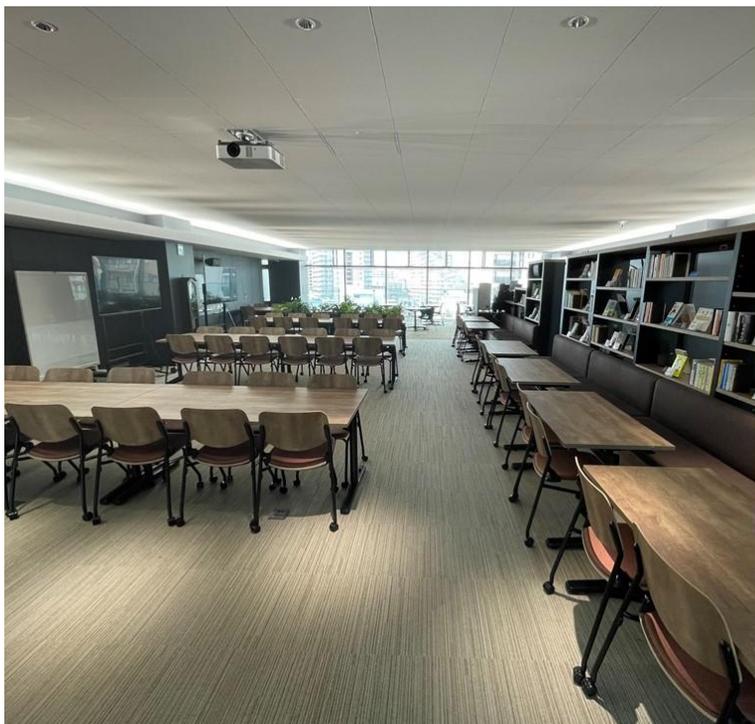
目指す姿
多様性が共存して、更に共創を生む工場
・たれでも安心/安全に作業出来る環境による多様な働く人々の共創と挑戦
・コミュニケーションと働きがいのある主要業務の向上によりやりがいを持って働ける職場づくり

before

ENERGY CHARGE HILLS

～丘のように人が集まり、癒しと交流が生まれる、“活動の原動力”を与える場～

【特別賞】 須賀工業株式会社



一人ひとりが輝く空間



【審査員講評】

- ・設備会社が、自社の技術力を存分に発揮して、自社オフィスを高い環境性能で実現していることを高く評価したい。
- ・フロアの狭さという制約下で、多様な空間づくりの工夫を凝らしている。
- ・働き方、組織風土との関連性、エンゲージメントやウェルビーイングとの関係、ありとあらゆる検証をしている。
- ・職場体験学習は素晴らしい取り組みである。インフラの基礎と最新技術を体験できるし、講師役の社員の成長の場である。
- ・太陽光を多く取り入れることで省エネを実現し、オフィスビルの模範となるよう工夫された点は、高く評価できる。
- ・管工事業、設備業と言う本業の知見をフルに体現しながら、新社屋での働き方やビジネス上の創造価値を意識されたオフィスとなっている点を評価。新しいオフィスでの働き方の意図を伝えるために動画でマニュアルを作成したという点も素晴らしいと思う。交流のための空間を用意するだけでなく、サークル活動を通じた社内の交流も行われており、より良いオフィス活用に向けた成長が期待できる。
- ・地域に愛着を持ち、自社の長い歴史を活かしたオフィスのあり方を実現されているという印象だった。自社が保有する技術や知識を取り入れた快適な職場環境構築は素晴らしいと思う。

【特別賞】 須賀工業株式会社

応募組織等名称	須賀工業株式会社
URL :	https://www.suga-kogyo.co.jp
資本金	1,950百万円
業種	管工事業
応募オフィス名称	須賀工業株式会社 本社
応募オフィスの従業員数	170人
使用開始年月 :	2022年5月
応募オフィス所在地	東京都江東区富岡一丁目26-20
建物の築年数	2年
応募オフィスの延床面積	3781.67㎡
応募オフィスのフロア数	9フロア
応募オフィスの種類	事務所

オフィスを造られた経緯・目的

【記入必須項目】 はじめに

オフィスを造られた経緯・目的をご説明ください。
ビフォーアフターの写真等があれば貼付してください。

2021年創業120周年を迎え、新本社では、「健康になる環境デザイン」という建物の基本コンセプトに沿った、新しい時代の執務環境を自ら体現し、社会に発信するオフィスづくりを構築。

■ 経営理念実践の場としての新本社ビル

- ・須賀工業は、設備技術の発展を通じてSDGsの達成に貢献し健康経営を実践します。
- ・人の健康と、その前提である安全・安心を、環境技術・環境デザインで実績すること、それは須賀工業の基本理念の実践。
- ・須賀工業は『健康になる環境デザインの実践』をテーマとする新本社を建設。

■ 健康になる環境デザイン その実践の場としての新本社ビル

- ・ワーカーにとって快適で健康なワークプレイスとは、光・温度・湿度等が一定に保たれた従来の執務室空間ではなく、ワーカーが環境の変化を感じ、選び、それに働きかける事が出来る空間。
- ・ワーカーと環境が対話するワークプレイスを、設備技術によって実現する事。

before



after

